

令和4年度小松市立向本折小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	＜あたたかてつよい集団をつくる＞	・学習オリエンテーションで学習規律を全校で確認できるのは効果的であった。一方で、一部、守れていない児童がいる現状がある。そのため、学習オリエンテーションの中身を精選し、学期始めに行う。その際、児童にルールを考えさせる場を設けたり、児童が中身を伝える工夫をしたりする。 ・ミニレターのやりとりは効果的だった。「自己肯定感」「自己有用感」につながる項目の数値にも表れている。一方で、あたたかい言葉遣いに課題がある。ほほわ言葉の意識が弱く、児童と連携して、年間を通じてもらってうれしかった言葉を掲示していくなどの取り組みをしていく方がよい。 ・あいさつの取り組み期間中はあいさつが良くなる。継続してよくなるように学期に一度は取り組みを考えていく。	・学習オリエンテーションは、低、中学年には効果的であった。高学年は内容を精選し、学級代表が行うことで、確認することが効果的であった。 ・ミニレターのやりとりは、個にかえるように工夫することで自己肯定感、自己有用感が向上した。一方で、あたたかい言葉遣いにはまだまだ課題があるため、その言葉遣いについては、何かしらの取組が必要である。 ・学期に一度のあいさつの取組は、期間中はよくなる。終わるとあいさつが良くなるが、学期に一度は取組をするのを継続していくとよい。期間が終わった後、どのように声かけをするのかも考える必要がある。
	・各学期始めに学校の現状にあった学習オリエンテーションを行い、どのクラスも学習規律が定着し、真剣に学びに向かう集団にする。 ・ほほわ言葉を意識したミニレターのやりとりを行い、あたたかい言葉遣いができるようにする。 ・児童会と連携して、学期ごとに元気なあいさつが自分からできるようにする取り組み、相手の立場に立って考え、行動できる子を育てる。	・児童会の取り組みとして、あいさつの取り組み、廊下を歩こうプロジェクト、小中サミットと連携した「よいところの種をまこう～いいことおま～」の取組もまた、児童が主体的に活動することができた。 ・2学期の運動会に向けてのスローガンづくりなど、児童が作り上げた実感をもちせるようにする。	・授業や学校行事、小中サミットと関連付けた取組は児童の主体性、意欲を高めることができた。 ・上学年の活躍の場を意図的に設定することで、下学年が憧れる姿を見ることが出来るため、続けたいとよい。
児童会	＜児童の主体性を高める＞	・児童会の取り組みとして、あいさつの取り組み、廊下を歩こうプロジェクト、小中サミットと連携した「よいところの種をまこう～いいことおま～」の取組もまた、児童が主体的に活動することができた。 ・2学期の運動会に向けてのスローガンづくりなど、児童が作り上げた実感をもちせるようにする。	・授業や学校行事、小中サミットと関連付けた取組は児童の主体性、意欲を高めることができた。 ・上学年の活躍の場を意図的に設定することで、下学年が憧れる姿を見ることが出来るため、続けたいとよい。
	・重点目標を要とし、思いやりのあるやさしい心を育む	・重点目標の掲示に加え、「思いやりの木」にシールを葉に見立て、貼っていく取り組みを行った。思いやりの行動を发表或したり、可視化したりすることでやさしい心を実感することができたが、クラスによって取り組み時期やシールを貼る量などに差が生じた。全クラスで取り組むことができるよう、掲示の仕方や時期など工夫していく。 ・通信を通して、学校で行っている道徳教育について保護者に周知することができた。保護者からのメッセージを載せることで、地域と学校が一緒に子どもの心を育てていくことができるようにする。 ・道徳の研究授業を1学期にできなかったことが反省点である。低学年部会で発問づくりをし、教材研究を行うことができたので、9月に道徳の研究授業を行い、研修会を行う。	・重点目標の掲示と「思いやりの木」について2学期初旬に再度、全体会で具体案を共通理解し、全クラスで取り組むことができた。児童会企画委員会で行った人権集会と連携し、各クラスの「思いやりの宣言」を確認した。児童一人ひとりの自己肯定感を高め、自分や友達も大切な存在だと感じる心を育てることができた。 ・11月の学校公開教育ウィークで地域スポーツクラブの監督をゲストティーチャーとして招き授業を行い、その様子を道徳通信に載せた。これからは家庭と学校と連携した授業実践を行い、その様子を発信していきたい。 ・れいんぼーる～むの児童と交流学習を行うことで国際理解を深めることができた。 ・部会で発問づくりや授業構想シートを使って指導案を考え、9月に道徳の研究授業を行った。研修会では、ねらいを明確にした授業づくりやICT活用について共通理解することができた。
道徳教育	・重点目標を校内や教室に掲示し、「やさしい心」への意識を高める。 ・学校での道徳的取組などを年に3回道徳通信を発行することで地域・保護者と共に児童の心を育んでいく。 ・地域・保護者と連携し、家庭や地域の教育力を生かした授業実践を行う。 ・道徳の研究授業を行い、研修会とする。	・アンケートでは、家庭での読書に関する項目で、児童は63.2%、保護者は51.2%が進んで読書をしていると答えている。数年來、変わらず低迷している状況なので、家庭学習調べの週だけでなく、普段から宿題に読書を位置づけ、習慣化するように改善を図る。2学期からは、3冊借りることができるよう「図書館60」の曜日と週末は、全校で読書を宿題の一部にし、家庭での読書を促進する。 ・15分間の朝読書を確実に行うため、前日に本を決めておいたり、途中で離席したりしないようにする。 ・1学期の「読書集会」の成果と課題を考察し、読書の幅を広げたり、質を高めた तरीかのように、2・3学期の「読書集会」に生かしていく。	・アンケートの読書の項目では、児童が64.0%、保護者が58.7%が進んで読書をしているという結果であった。「図書館60」の曜日と週末に読書を宿題に位置づけたことで、家庭で読書をするものが増え、保護者の回答が上がったと考えられる。また、図書館だけでなく読書の大切さや家庭読書の促進について載せたことも効果的だった。今後も家庭読書を促進するために家庭への啓発を継続する。 ・朝のさわやかタイムで学級文庫の本や司書の選書の読み聞かせを継続した。また、学級文庫の本を読む機会を増やすために、さわやかタイムでの読書や読書集会では学級文庫を活用した。読書が苦手な児童のために年度途中で本を追加したり司書がブックトークを行ったりした。
	・読書の質の向上を図る	・アンケートでは、家庭での読書に関する項目で、児童は63.2%、保護者は51.2%が進んで読書をしていると答えている。数年來、変わらず低迷している状況なので、家庭学習調べの週だけでなく、普段から宿題に読書を位置づけ、習慣化するように改善を図る。2学期からは、3冊借りることができるよう「図書館60」の曜日と週末は、全校で読書を宿題の一部にし、家庭での読書を促進する。 ・15分間の朝読書を確実に行うため、前日に本を決めておいたり、途中で離席したりしないようにする。 ・1学期の「読書集会」の成果と課題を考察し、読書の幅を広げたり、質を高めた तरीかのように、2・3学期の「読書集会」に生かしていく。	・アンケートの読書の項目では、児童が64.0%、保護者が58.7%が進んで読書をしているという結果であった。「図書館60」の曜日と週末に読書を宿題に位置づけたことで、家庭で読書をするものが増え、保護者の回答が上がったと考えられる。また、図書館だけでなく読書の大切さや家庭読書の促進について載せたことも効果的だった。今後も家庭読書を促進するために家庭への啓発を継続する。 ・朝のさわやかタイムで学級文庫の本や司書の選書の読み聞かせを継続した。また、学級文庫の本を読む機会を増やすために、さわやかタイムでの読書や読書集会では学級文庫を活用した。読書が苦手な児童のために年度途中で本を追加したり司書がブックトークを行ったりした。
読書教育	・火曜・水曜のさわやかタイムには、必ず学級文庫（おすずめの本）を読み、チェックシートに記入する。 ・毎週木曜のさわやかタイムには、担任や図書ボランティアが学級文庫の本や司書の選書の読み聞かせを行う。 ・学習の関連図書、季節や行事に合わせた図書を紹介し、様々な分野の本に触れる機会を持つ。 ・読書集会を行うことで、本の紹介を通し、読書の興味や選書の幅を広げる。 ・定期的な家庭向けのおたよりを発行し、家庭での読書を推進する。	・アンケートでは、家庭での読書に関する項目で、児童は63.2%、保護者は51.2%が進んで読書をしていると答えている。数年來、変わらず低迷している状況なので、家庭学習調べの週だけでなく、普段から宿題に読書を位置づけ、習慣化するように改善を図る。2学期からは、3冊借りることができるよう「図書館60」の曜日と週末は、全校で読書を宿題の一部にし、家庭での読書を促進する。 ・15分間の朝読書を確実に行うため、前日に本を決めておいたり、途中で離席したりしないようにする。 ・1学期の「読書集会」の成果と課題を考察し、読書の幅を広げたり、質を高めた तरीかのように、2・3学期の「読書集会」に生かしていく。	・アンケートの読書の項目では、児童が64.0%、保護者が58.7%が進んで読書をしているという結果であった。「図書館60」の曜日と週末に読書を宿題に位置づけたことで、家庭で読書をするものが増え、保護者の回答が上がったと考えられる。また、図書館だけでなく読書の大切さや家庭読書の促進について載せたことも効果的だった。今後も家庭読書を促進するために家庭への啓発を継続する。 ・朝のさわやかタイムで学級文庫の本や司書の選書の読み聞かせを継続した。また、学級文庫の本を読む機会を増やすために、さわやかタイムでの読書や読書集会では学級文庫を活用した。読書が苦手な児童のために年度途中で本を追加したり司書がブックトークを行ったりした。
	・読書の質の向上を図る	・アンケートでは、家庭での読書に関する項目で、児童は63.2%、保護者は51.2%が進んで読書をしていると答えている。数年來、変わらず低迷している状況なので、家庭学習調べの週だけでなく、普段から宿題に読書を位置づけ、習慣化するように改善を図る。2学期からは、3冊借りることができるよう「図書館60」の曜日と週末は、全校で読書を宿題の一部にし、家庭での読書を促進する。 ・15分間の朝読書を確実に行うため、前日に本を決めておいたり、途中で離席したりしないようにする。 ・1学期の「読書集会」の成果と課題を考察し、読書の幅を広げたり、質を高めた तरीかのように、2・3学期の「読書集会」に生かしていく。	・アンケートの読書の項目では、児童が64.0%、保護者が58.7%が進んで読書をしているという結果であった。「図書館60」の曜日と週末に読書を宿題に位置づけたことで、家庭で読書をするものが増え、保護者の回答が上がったと考えられる。また、図書館だけでなく読書の大切さや家庭読書の促進について載せたことも効果的だった。今後も家庭読書を促進するために家庭への啓発を継続する。 ・朝のさわやかタイムで学級文庫の本や司書の選書の読み聞かせを継続した。また、学級文庫の本を読む機会を増やすために、さわやかタイムでの読書や読書集会では学級文庫を活用した。読書が苦手な児童のために年度途中で本を追加したり司書がブックトークを行ったりした。
人権教育	＜自分と他者を大切にしようとする心を育む＞	・行事や授業交流等のもと、異なる学年に手紙を書いて渡す活動を行い、受け取った児童がノートや台紙に貼り貯めている。 ・児童会の取り組みで、1学期中、各クラスで「友達の良いところみつめ」の活動を行った。2学期には、友達の成長を見つけて伝え合う活動を行う。 ・障がいのある児童を理解するための授業を昨年引き続き行った。保護者をゲストティーチャーに迎え、1年生に授業を行った。	・様々な交流の後お互いに見つけたよさを書き、掲示することで思いを伝え合った。感想を聞いた児童からは「うれしくなった」「もっとがんばりたい」と前向きな声も聞かれた。 ・人権集会では、自分や友達の良いところを見つめ合う機会として、DVD視聴や各クラス道徳の取り組みを発表したり、児童会から「いいこと夜空」という友達の良いところを見つけて伝え合う取り組みの発表が行われた。どの児童も、自分のよさや自分を大切にすることについて考えを深めることができた。
	・複数の学年で取り組む学習や行事の後に、手紙形式の振り返りを書き、異なる学年に渡したり、伝えたりする活動を行う。 ・道徳や学活、総合的な学習の時間等で、自分や友達の良いところみつめを行ったり、ありのままの自分を受け入れたりするなど自己肯定感を高めるための活動を行う。	・行事や授業交流等のもと、異なる学年に手紙を書いて渡す活動を行い、受け取った児童がノートや台紙に貼り貯めている。 ・児童会の取り組みで、1学期中、各クラスで「友達の良いところみつめ」の活動を行った。2学期には、友達の成長を見つけて伝え合う活動を行う。 ・障がいのある児童を理解するための授業を昨年引き続き行った。保護者をゲストティーチャーに迎え、1年生に授業を行った。	・様々な交流の後お互いに見つけたよさを書き、掲示することで思いを伝え合った。感想を聞いた児童からは「うれしくなった」「もっとがんばりたい」と前向きな声も聞かれた。 ・人権集会では、自分や友達の良いところを見つめ合う機会として、DVD視聴や各クラス道徳の取り組みを発表したり、児童会から「いいこと夜空」という友達の良いところを見つけて伝え合う取り組みの発表が行われた。どの児童も、自分のよさや自分を大切にすることについて考えを深めることができた。
保健健康教育	＜すこやかな身体を育む＞	・教員に向けて、スポチャレの取り組み方などを発信した。1学期は、取り組んだクラスもあれば、取り組んでいないクラスもある。2学期は、児童会の協力を得て活動を進めたい予定である。夏休みのうちに掲示物を作成し、取り組みを促していく。 ・生活習慣とメディアのチェック週間を行った。朝ごはんを食べるとい項目では、97%、家で作ったメディアのルールを守る項目では79%という結果であった。これらを基に2学期、二計測時にメディアのルールを守ることに伴う呼びかけを行う。結果は悪くなかったが、回収率が低かったため、次回チェック週間毎日回収したり、呼びかけしたりするようにする。	・全クラスでシャトルボールに取り組みすることができた。体育館の渡り廊下に目標回数や現在の取組を掲示することで、記録が向上していった。体育委員会を通して、各クラスに表彰を行うこともできた。 ・生活習慣とメディアのチェック週間を2学期にも行った。前回と比べて朝ごはんを食べるとい項目では92%という結果であった。児童への呼びかけや保護者への啓発を継続していく。メディアのルールを守る項目は横ばいであった。視力への影響や依存について等も呼びかけることで、ルールを守れるようになっている。チャックカードを毎日回収したり、放送で呼びかけたりしたが回収率は伸びなかった。来年度は家庭学習調べと共に取り組んでいく。
	・種目を決めてスポチャレいしわかに取り組み、運動に対する意識を高め、体力を育む。 ・生活習慣とメディアのチェック週間を学期に1回設け、児童の自覚化を促すことで実態の改善を図る。	・教員に向けて、スポチャレの取り組み方などを発信した。1学期は、取り組んだクラスもあれば、取り組んでいないクラスもある。2学期は、児童会の協力を得て活動を進めたい予定である。夏休みのうちに掲示物を作成し、取り組みを促していく。 ・生活習慣とメディアのチェック週間を行った。朝ごはんを食べるとい項目では、97%、家で作ったメディアのルールを守る項目では79%という結果であった。これらを基に2学期、二計測時にメディアのルールを守ることに伴う呼びかけを行う。結果は悪くなかったが、回収率が低かったため、次回チェック週間毎日回収したり、呼びかけしたりするようにする。	・全クラスでシャトルボールに取り組みすることができた。体育館の渡り廊下に目標回数や現在の取組を掲示することで、記録が向上していった。体育委員会を通して、各クラスに表彰を行うこともできた。 ・生活習慣とメディアのチェック週間を2学期にも行った。前回と比べて朝ごはんを食べるとい項目では92%という結果であった。児童への呼びかけや保護者への啓発を継続していく。メディアのルールを守る項目は横ばいであった。視力への影響や依存について等も呼びかけることで、ルールを守れるようになっている。チャックカードを毎日回収したり、放送で呼びかけたりしたが回収率は伸びなかった。来年度は家庭学習調べと共に取り組んでいく。
情報教育	＜ICT機器を活用して、教科の学びを深める＞	・授業実践の共有が難しかったため、実践報告という形ではなく、もう少し容易に共有できる方法を2学期から実施する。 ・学年でつけた情報活用能力を明確にするため、メディアスキル指導計画を各学年に合わせて作成し、達成度を常に確認できるようにする。 ・プログラミング的思考を養う授業については学期以降実施する。1～2年はカードなどを利用したアンパグドの内容を提案する（時期未定）。3年はブラウザでできるプログラミング体験を行い（2時間程度 10～11月）、4年は校外学習を利用したプログラミングの基礎と体験を行う（5時間 10月）、5年は算数「円と多角形」の単元でscratchを利用した授業を行い（2時間 3学期）、6年は理科「発電と電気の利用」の単元でアーテックを利用したプログラミングでの命令を体験する（2時間 3学期）。	・実践共有について、各教員が行った実践を職員室内の共有スペースに貼つけるようにした。所、共有がスムーズになった。 ・各学期の終わりにメディアスキルの達成度を記入し、計画的な指導を行えるようにした。 ・3～6年生に関しては計画通りの授業を行い、体験を通してプログラミング的思考の良さを学ぶことができた。低学年に関しては決まった教材がないので、次年度以降継続して使えるような教材を作成する。 ・学習用端末の使用法やネットでのマナーが、慣れもあって少しずつフルに活用されている。学期ごとに行う学習オリエンテーションに情報モラルについての内容を組み込む。
	・年間指導計画やカリキュラムマップを基に、学習用端末が効果的に利用できる場面や活用方法を考え、活用を推進する。 ・ICT機器を活用した授業実践を定期的に共有し、児童の学びを深める授業に繋げる。 ・各学年の発達段階に応じて、プログラミング的思考を養うための授業を行う。	・授業実践の共有が難しかったため、実践報告という形ではなく、もう少し容易に共有できる方法を2学期から実施する。 ・学年でつけた情報活用能力を明確にするため、メディアスキル指導計画を各学年に合わせて作成し、達成度を常に確認できるようにする。 ・プログラミング的思考を養う授業については学期以降実施する。1～2年はカードなどを利用したアンパグドの内容を提案する（時期未定）。3年はブラウザでできるプログラミング体験を行い（2時間程度 10～11月）、4年は校外学習を利用したプログラミングの基礎と体験を行う（5時間 10月）、5年は算数「円と多角形」の単元でscratchを利用した授業を行い（2時間 3学期）、6年は理科「発電と電気の利用」の単元でアーテックを利用したプログラミングでの命令を体験する（2時間 3学期）。	・実践共有について、各教員が行った実践を職員室内の共有スペースに貼つけるようにした。所、共有がスムーズになった。 ・各学期の終わりにメディアスキルの達成度を記入し、計画的な指導を行えるようにした。 ・3～6年生に関しては計画通りの授業を行い、体験を通してプログラミング的思考の良さを学ぶことができた。低学年に関しては決まった教材がないので、次年度以降継続して使えるような教材を作成する。 ・学習用端末の使用法やネットでのマナーが、慣れもあって少しずつフルに活用されている。学期ごとに行う学習オリエンテーションに情報モラルについての内容を組み込む。
家庭・地域との連携	＜開かれた学校づくりの推進＞	・生活科、総合的な学習では、地域の人材を活用し学習活動の充実を図ることができた。 ・HPを刷新し、タイムリーに情報を更新している。子ども達の学校の様子だけでなく早く伝わるようICT担当が定期的に更新している。コードモンで月予定を配信するなど、保護者の利便性を図っている。 ・2学期はコロナ感染状況を見ながら、学校評議員にも授業参観等に来ていただくなど、直接子ども達の様子や学校の様子を見ていただける機会をつくる。	・生活科、総合的な学習では1学期同様、地域人材を活用した授業を進めることができた。 ・生け花クラブとお茶クラブは、継続して地域の講師の方にクラブの指導をしていただいている。児童も意欲的に活動し、講師の方からも児童の成長を感じていただき、次年度も継続して協力いただくことになっている。 ・学校公開の機会に、5年生の道徳の授業で地域スポーツの監督にゲストティーチャーとして参加してもらった。地域スポーツと学校が互いの活動を理解し合いながら連携していくことを継続する。 ・学校評議員には運動会の参観を案内した。実際の参観は一部の評議員であったが、新しいコロナ対応をもとに、学校の教育活動の案内を積極的に行う。
	・地域人材を活用し、学習活動の充実を図る。（総合的な学習の時間、道徳、クラブなど） ・各種便りやHP、メール配信等で学校から適切に情報を発信し、家庭や地域との連携に努める。	・生活科、総合的な学習では、地域の人材を活用し学習活動の充実を図ることができた。 ・HPを刷新し、タイムリーに情報を更新している。子ども達の学校の様子だけでなく早く伝わるようICT担当が定期的に更新している。コードモンで月予定を配信するなど、保護者の利便性を図っている。 ・2学期はコロナ感染状況を見ながら、学校評議員にも授業参観等に来ていただくなど、直接子ども達の様子や学校の様子を見ていただける機会をつくる。	・生活科、総合的な学習では1学期同様、地域人材を活用した授業を進めることができた。 ・生け花クラブとお茶クラブは、継続して地域の講師の方にクラブの指導をしていただいている。児童も意欲的に活動し、講師の方からも児童の成長を感じていただき、次年度も継続して協力いただくことになっている。 ・学校公開の機会に、5年生の道徳の授業で地域スポーツの監督にゲストティーチャーとして参加してもらった。地域スポーツと学校が互いの活動を理解し合いながら連携していくことを継続する。 ・学校評議員には運動会の参観を案内した。実際の参観は一部の評議員であったが、新しいコロナ対応をもとに、学校の教育活動の案内を積極的に行う。
学校関係者評価	○教員のアンケート結果で中間と比べ大きく数値が変わっているものがある。具体的な場面をもとに分析する必要がある。 ○業務改善が進んでいる実感を持っていないとしたら、原因究明をする必要がある。 ○カリキュラム・マネジメントの項目で中間と比べて数値が下がっている項目について、評価基準が妥当であったかという観点からプランを見直してみるとよいのではないかと。 ○読書教育の充実について、より多くの本に触れるように、本を置くスペースを工夫してはどうか。 ○家庭での読書習慣を定着させることと並行し、子ども達が様々なジャンルの本を読むような工夫があるとうい。 ○子ども達のことは違っていて、保護者と子どもの意識の差が大きい。「よい言葉づかい」とはどんな場面でのどんな言葉づかいのことを指しているのかが明確になるように、アンケートの文言を精査するとよいのではないかと。 ○家庭でのメディア・ネット・ゲームの約束や使い方について、保護者への更なる啓発が必要だと思う。ネットの不適切な使い方が及ぼす心身への被害についてアナウンスすることが必要ではないかと。		